

みんなちがって あたりまえ でも 子育てに 不安を 感じる すべての方へ
 子育て おうえん ちょっと 休憩しませんか？



「ミルクティー」

村松小学校特別支援コーディネーター 下田 誉子



では、まず、あまいミルクティーをどうぞ。

第3回目は、子どもの「暴力・暴言・もの壊し」にどう接する？のお話です。

「うちの子はADHDの傾向があります。特に、言葉が暴力的で、毎日のように親子喧嘩が続いています。死ね！とか、くそばあ！とか、ひどいんですよ。いくら怒ってもやめないのです。どうしたらいいのでしょうか。もうへとへとです。」・・・

「あら！そうそううちも同じ～～。」ってありますよね。

ADHDだけではなく、反抗期や思春期になると、言いたくなる時期があります。

親御さんは、そんな時期はありませんでしたか？よく思い出してみてください。そして昔は、親から叩かれ、「だからといって反省なんかしていないぞ！」みたいな・・・。

まずは、こういうお子様への対応で、絶対これはやってはいけないことをお教えしますね。

NG① 暴力に対して暴力（体罰）で返すこと（他人に暴力を振るう子に育ちます）

NG② その場しのぎの解決（従属、取引）を優先すること（高額な金銭を要求するようになります）

NG③ 子どもの言った言葉にいちいちつき合うこと（言い合いがいつまでもつづきます）

まず、これを試してみてください。「死ね」「くそばあ」と言ってきた時、「そんなこと言ってはダメ」と教えることは必要。もちろん、学校でも教えています。その上で言っているのですから、気持ち荒れてるか、順調な反抗期のひとつです。ですから、「はいはい、いつまでも言いたいだけ言っておきなさい。あなたも、成長してるのね♪」・・・と、心で思いつつ）放っておき、聞き流す。親が相手してくれないとわかったら、子どもは言わなくなります。その後、ふつうに話しかけてきた時に、**すぐ！速攻で！**「なあに？」「いつも、そう言ってくれるとうれしいな」と優しく言う。

参考文献 「正解に1つだけの子育ての教科書」奥田 健次 著

次に、日本人の親が挑戦しやすいと言われている対応の仕方をひとつ。

「タイムイン」という方法です。

①親が近くで静かに寄り添いながら子どもの言い分を聞く。（ここではどんな言い分も否定せず、受け止めるようにします。腹が立っても我慢して聞く。親も子も修行です。）

②ある程度子どもが冷静になったら、今後はどうしたらいいか親子で話合うようにする。（親が離れずに、そばで支えてあげることで、子どもが孤独感を抱くことはなく、信頼関係も築ける。）

村松小学校の先生方は、タイムインのタイプが多いようですね。

困っている子どもと同じ目線に下りて（しゃがんで）、話を聞いていますよ(^-^)

ちなみに、上記のNG③は、逆の「タイムアウト法」。アメリカの子育てでは、そちらが多く、

本当に暴力がひどい時には、子どもの将来を考えて、精神科等の病院に入院させるまでに

至る方法です。しかし、日本の子どもの中には、親から見放されたと思ってしまう子どももいるとのこと。

ミルクティーの味は、いかがだったでしょうか。では、次は7月号で。

